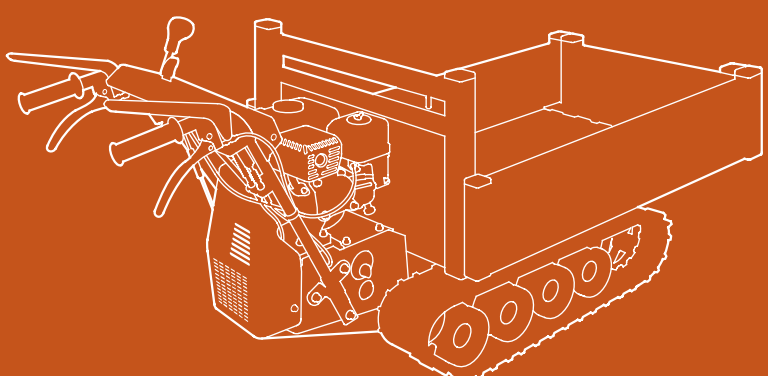
HONDA
汎用製品

運搬機

HP500H

取扱説明書



e SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

● 一般公道では使用できません。
● 夜間作業はできません。
（作業灯の装備がされていません）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

e-SPEC は、Honda が「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、（社）日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた運搬機を安全に正しく操作をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上、特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう 4
安全ラベル 8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 10
エンジン　スイッチ 12
燃料コック　レバー 12
チョーク　レバー 13
エンジン回転調節レバー 13
始動グリップ 13
走行クラッチ　レバー 14
変速レバー 14
サイド　クラッチ　レバー 15
ダンプ　ロック解除レバー 15

作業前に点検しましょう 16
燃料の点検 16
クローラの点検 18
荷台延長パイプのロック　ボルトの点検 19
エンジン　オイルの点検 20
エア　クリーナ（空気清浄器）の点検 22
HST（変速機）オイルの点検 23

エンジンのかけかた 24

エンジンのとめかた 28

運転操作のしかた 30
運転 30
旋回のしかた 32
荷台（キャリア）の使いかた 33
積載のしかた 36
傾斜地での使いかた 37
ダンプ　ロック解除レバーの使いかた 38

定期点検を行いましょう 39
　定期点検整備項目 39

点検・整備のしかた 40
　エンジン　オイルの交換 40
　点火プラグの点検・調整・交換 42
　エア　クリーナの清掃 43
　クローラの調整 44
　走行クラッチ　ケーブルの調整 46
　ブレーキ　ケーブルの調整 48
　ブレーキ　シューの点検 49
　サイド　クラッチ　ケーブルの調整 50
　ダンプ　ロック　ケーブルの調整 51
　ミッション　オイルの点検 52
　各部の給油について 53

トラック（車）への積み降ろしのしかた 54

長期間使用しないときの手入れ 56

故障のときは 59

主要諸元 60

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法をご理解のうえで操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 過労や病気、薬物の影響で運転操作に支障があるときは本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 頭髪、衣服、手ぬぐいなどが巻き込まれないように、作業に適した服装をしてください。また滑り止めのついた作業に適した靴をはいてください。思わぬ事故を起こすことがあります。
- 日常点検・整備を必ず行い、本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態で操作すると、大けがをすることがあります。点検作業は、通行の妨害にならない平坦で安全な場所で行ってください。防護装置が正しく取付けられていることを確認してください。
  点検・整備のために取外された部品は正しく取付けられ、確実に締め付けられていることを確認してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
  燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気のよい場所で補給してください。また燃料を補給するときや燃料の保管場所では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 本機の操作は 2 本のハンドル　バーをしっかり握り、本機の後方に立って操作をしてください。荷台の上に乗ったままの操作は絶対にしないでください。転落などにより、けがをするおそれがあります。

警告

- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。また本機の改造は絶対にしないでください。適正な機能を発揮しなくなり、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- 荷台に人を乗せて乗り物代わりの使用は絶対にしないでください。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機の操作をさせないでください。
  特に子供には絶対にさわらせないでください。
- 本機を他人に貸し出す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

●荷物の積載

- 過積載は絶対にしないでください。積載の量、方法を必ず守って使用してください。「積載のしかた」(36頁参照)
- 荷台に荷物を積載する場合は荷崩れしないように、しっかりとロープで固定してください。
- 荷台からはみ出すような荷物は積載しないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したり、運転操作に支障をきたします。
- 高く荷物を積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなり転倒するおそれがあります。

●作業中

- 作業中は周囲の安全に十分注意してください。
- 本機と接触してけがをすることがないように、作業範囲内に人やペットを近寄らせないでください。特に子供には注意が必要です。人やペットが近づいて来たときは、エンジンを止めて作業を中断してください。事故を起こすおそれがあります。
- 運転中は、クローラ部に手や足を近づけないでください。

警告

- 後進で使用するときは滑ったり、つまずいたりする場合がありますので足元、荷崩れ、後方視界などに十分注意してください。
- 視界が悪いときは障害物にぶつかる場合がありますので本機を使用しないでください。
- 作業場への出入り、溝や畦の横断、砂地での使用、軟弱地の通過、傾斜地での発進、停止、旋回などは転倒するおそれがありますので注意して走行してください。
- 傾斜地で駐車しないでください。駐車をするときは平坦な場所でエンジンを止めて、変速レバーを " 低速 " にし、走行クラッチレバーを " 停車 " にしてください。
- 急傾斜地での旋回および変速は、転倒や転落するおそれがありますので避けてください。
- 軟弱な道の走行は路肩が崩れ、転倒、転落するおそれがありますので避けてください。
- 本機の転倒を避けるため、平地または15度以下の傾斜地で使用してください。「積載のしかた」（36頁参照）
- 作業中に異常を感じたら、平坦な場所でエンジンを停止させてください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを " 停止 " にして点火プラグ　キャップをプラグから取外し、変速レバーを " 低速 " にして、走行クラッチ　レバーを " 停車 " にしてから点検してください。
- 運転中はエンジンやマフラ（消音器）などは非常に熱くなっています。エンジン停止後もしばらくの間は熱いままになっています。やけどのおそれがありますので、エンジンやマフラなどに触れないように注意してください。
- クローラの上面が水に浸かるような深い水田などでは使用しないでください。

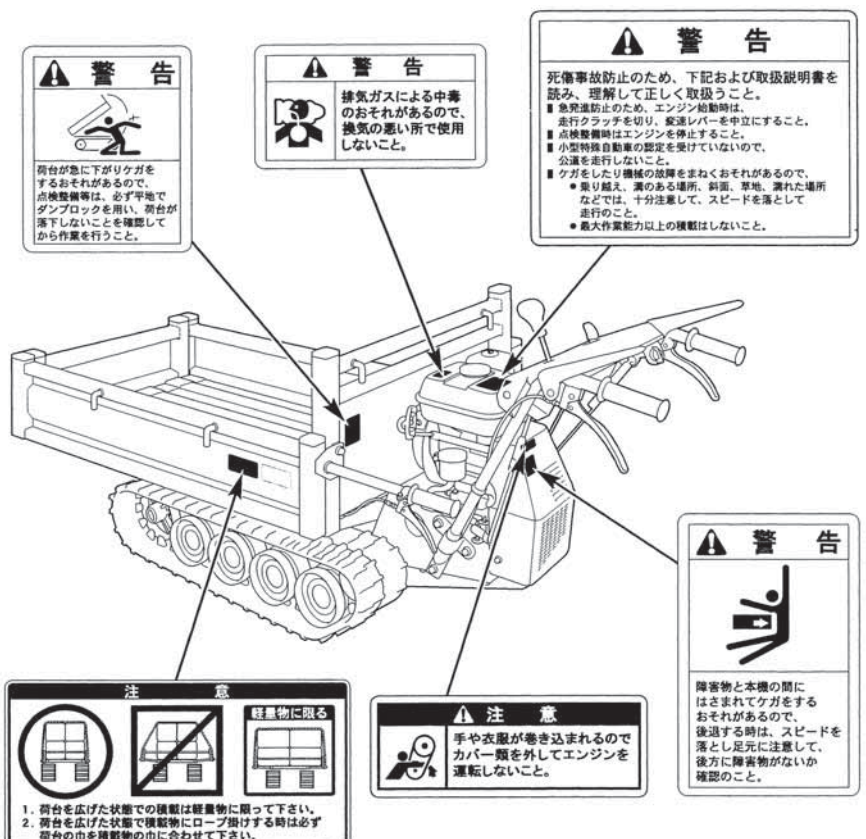
警告

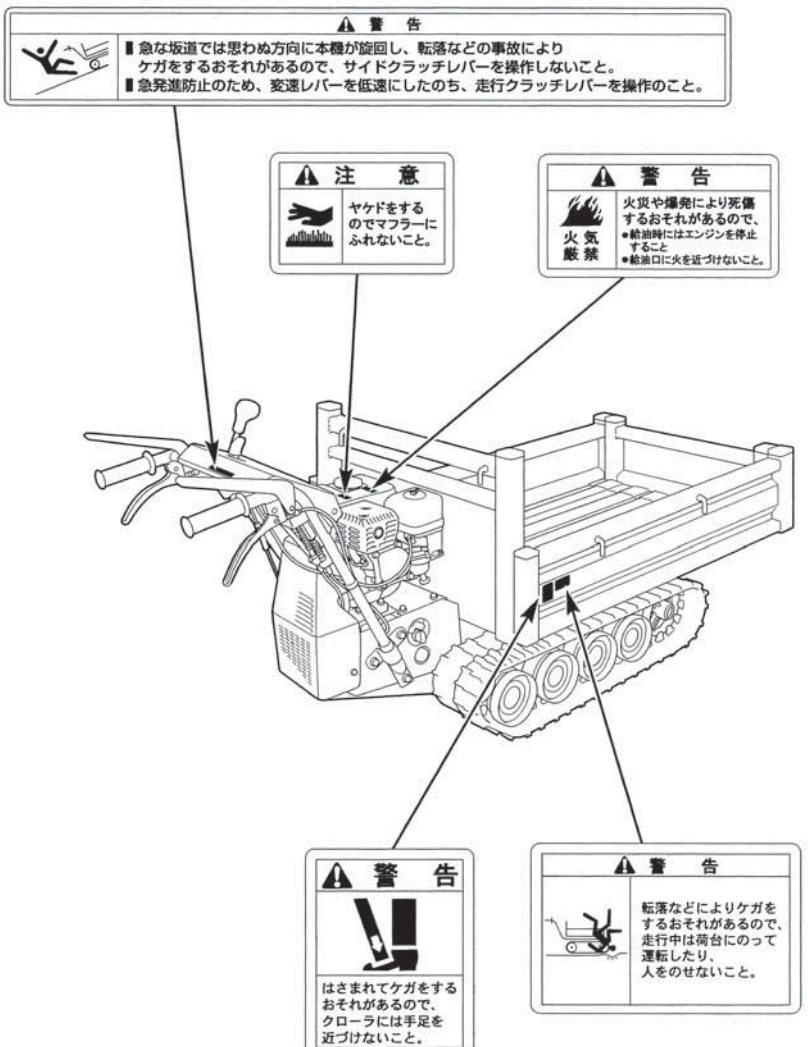
●作業が終わったら

- 次の作業に備えて本機の点検・整備を実施してください。
- やけどの原因とならないように、エンジンを停止させ、エンジンやマフラなどが冷えてから各部の清掃をしてください。
- 本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ　カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレータの燃料を抜き取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- トラック（車）への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下した場合にけがをするおそれがあります。

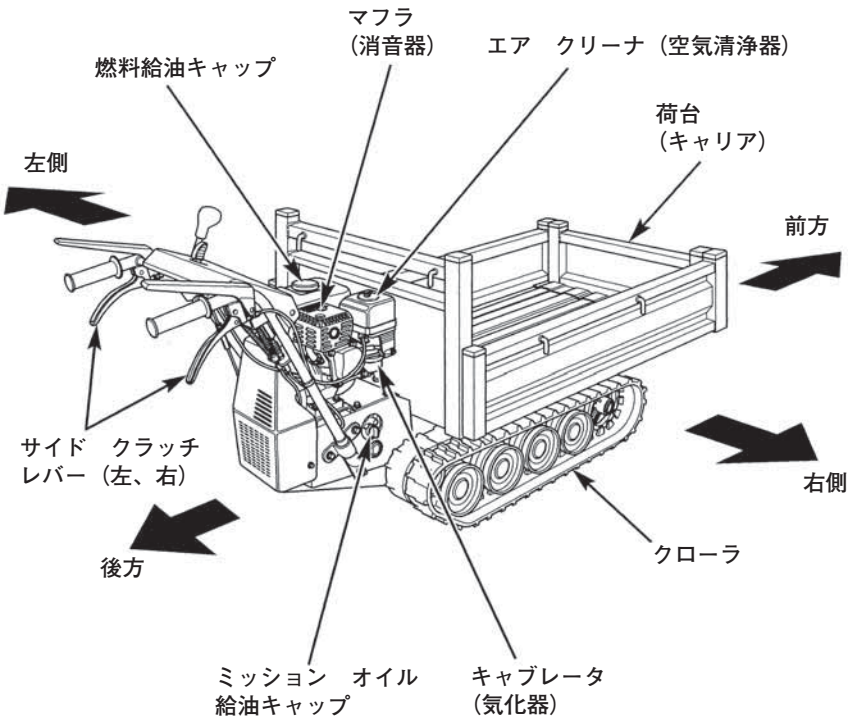
●安全ラベル

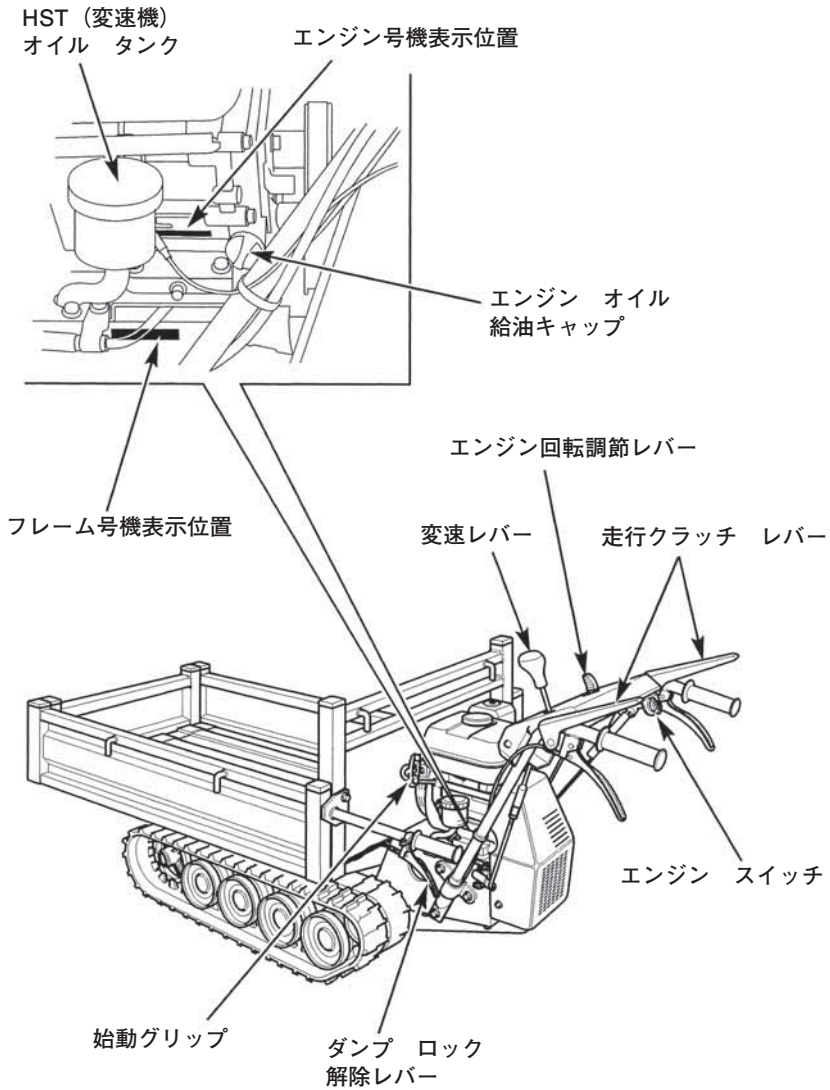
本機を安全にご使用いただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失で読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。
また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。
安全ラベルはお買いあげいただいた販売店にご注文してください。




⚠ 警　告
■急な坂道では思わぬ方向に本機が旋回し、転落などの事故により
ケガをするおそれがあるので、サイドクラッチレバーを操作しないこと。
■急発進防止のため、変速レバーを低速にしたのち、走行クラッチレバーを操作のこと。
⚠ 注　意
ヤケドをする
のでマフラーに
ふれないこと。
⚠ 警　告
火気厳禁
火災や爆発により死傷
するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止
すること
●給油口に火を近づけないこと。
⚠ 警　告
はさまれてケガをする
おそれがあるので、
クローラには手足を
近づけないこと。
⚠ 警　告
転落などによりケガを
するおそれがあるので、
走行中は荷台にのって
運転したり、
人をのせないこと。

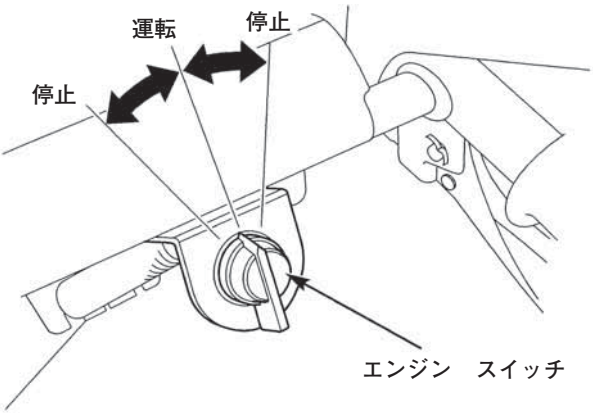
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




HST（変速機）
オイル　タンク
エンジン号機表示位置
エンジン　オイル
給油キャップ
フレーム号機表示位置
エンジン回転調節レバー
変速レバー
走行クラッチ　レバー
エンジン　スイッチ
始動グリップ
ダンプ　ロック
解除レバー

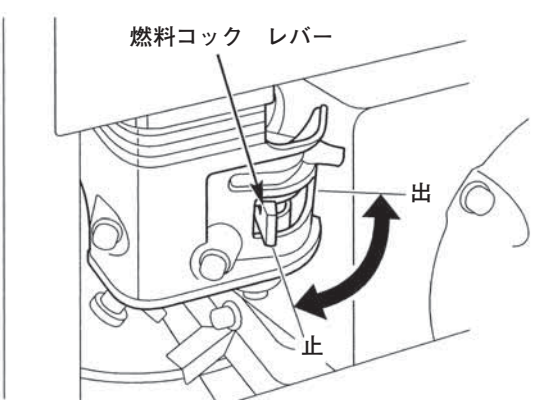
エンジン　スイッチ

エンジンの運転、停止をするときに操作します。



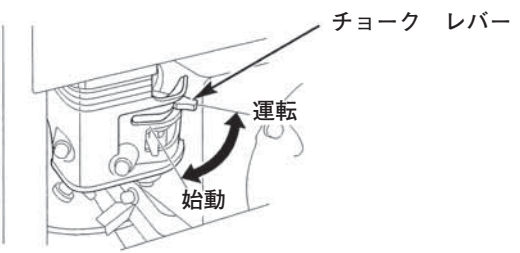
燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータ（気化器）までの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に"**止**""**出**"の位置に合わせます。



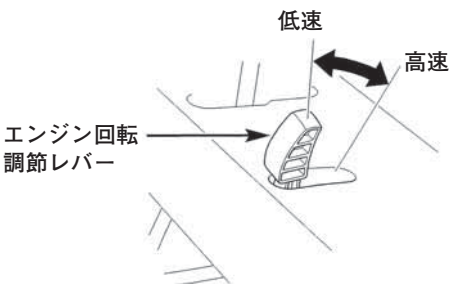
チョーク　レバー

エンジンが冷えているときに操作します。



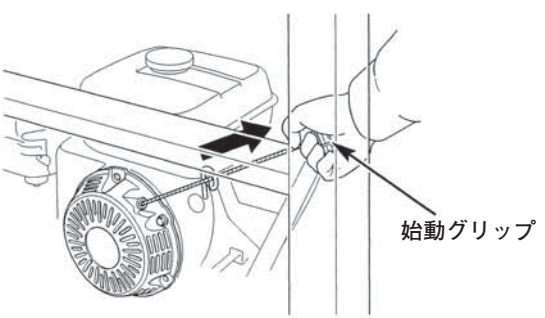
エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調整するレバーです。エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



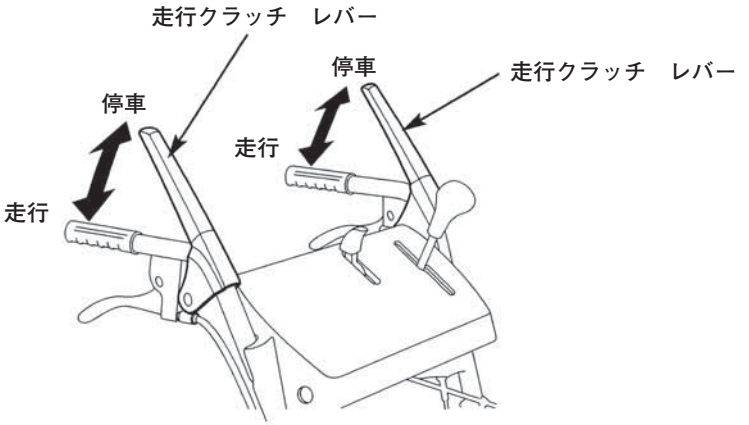
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



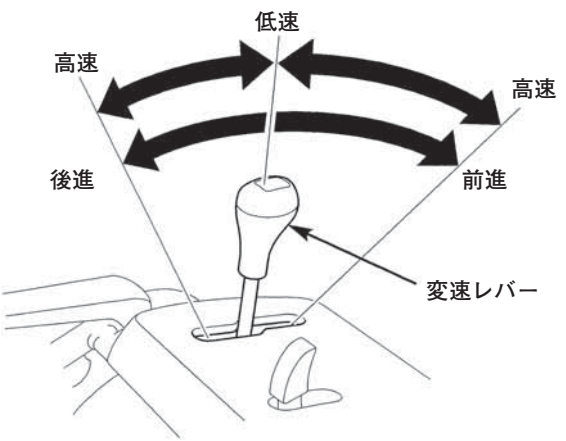
走行クラッチ　レバー

走行クラッチ　レバーを握ると走行し、放すとクラッチが切れブレーキが作動して止まります。



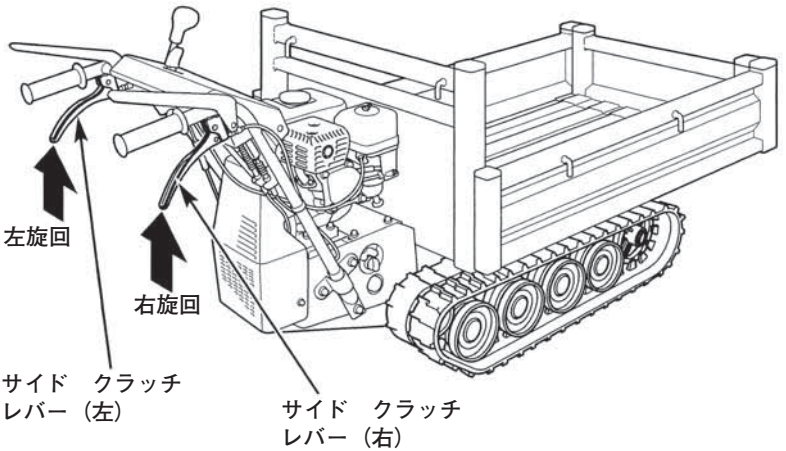
変速レバー

本機を前進、後進するために操作します。
作業内容に応じた適切な走行速度に調整（無段変速）してください。



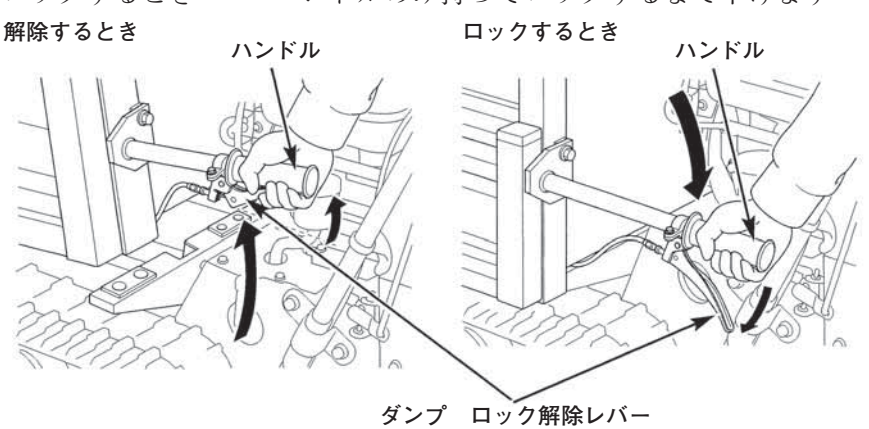
サイド　クラッチ　レバー

方向を変えるときに使います。レバーを握ると握った方向に曲がります。



ダンプ　ロック解除レバー

荷台（キャリア）のロックを解除するときに操作します。
解除するとき …… レバーを握りハンドルを持ち上げます。
ロックするとき …… ハンドルのみ持ってロックするまで下げます



⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にしエンジンを止めて行ってください。
不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと事故を引き起こすおそれがあります。

燃料の点検

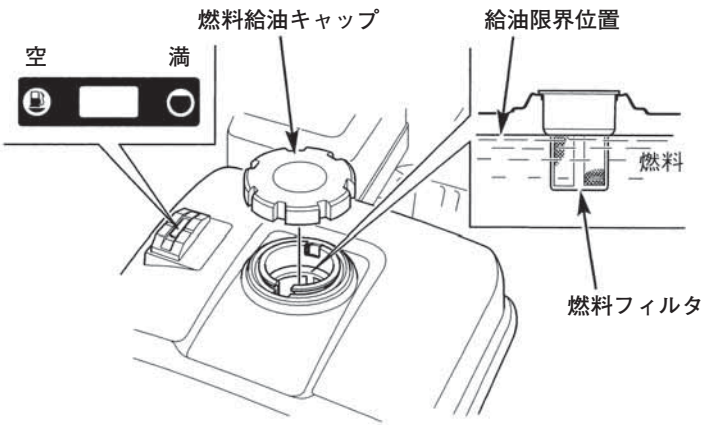
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して大けがや死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 換気のよい場所で補給してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり、引火して火災を引き起こすおそれがあります。

点検

燃料計を確認してください。

燃料計の針が**"空"**に近づいたら、早めにエンジンを止め、燃料を補給してください。



補給

燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないよう補給してください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

補給後、キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

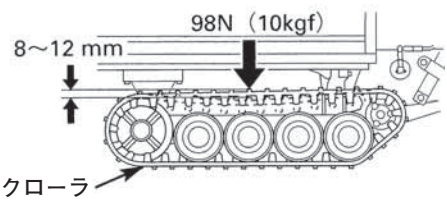
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**
- **ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。**

クローラの点検

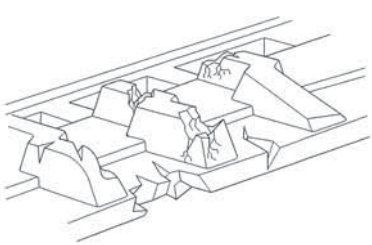
クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

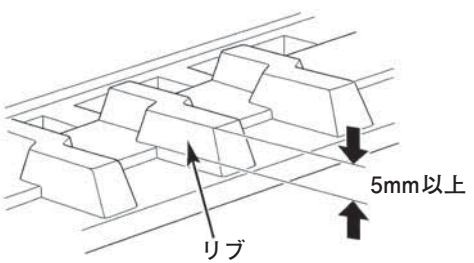
点検のしかた

1. クローラの中央部を強く｛約98N（10kgf)｝押したとき、たるみが下記寸法になっているか点検してください。(調整方法は44頁参照)
   たるみ量：8～12mm



2. クローラに著しい亀裂、損傷、摩耗がないか点検してください。
3. クローラのリブの高さを点検してください。
   リブの高さ：5mm以上





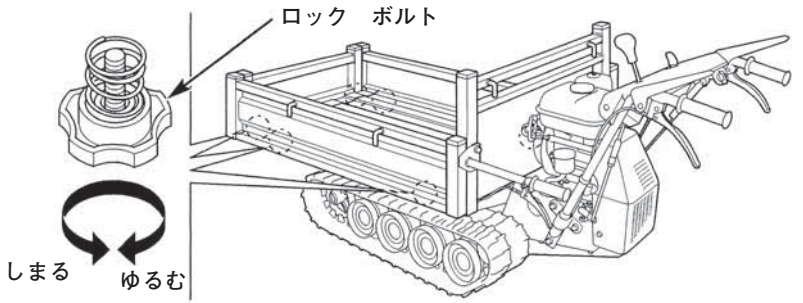
4. クローラに著しい亀裂、損傷、磨耗があるときは、お買いあげ販売店にお申しつけください。

⚠警告

走行中ににクローラが外れたり切れたりした場合、荷崩れや転倒などの事故につながります。
走行不能になると同時にブレーキが効かなくなり重大事故になる場合があります。

荷台延長パイプのロック　ボルトの点検

荷台延長パイプのロック　ボルトがゆるんでいないか点検してください。
もしゆるんでいる場合は、手で確実に増し締めしてください。



⚠注意

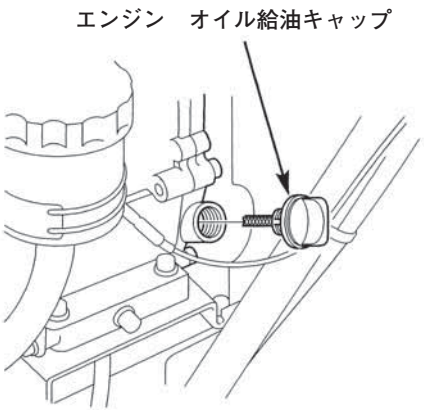
ロック　ボルトの締付けがゆるいと運搬中に荷台サイド　プレートや荷台フロント　プレートが外れ、荷崩れやけがをするおそれがあります。

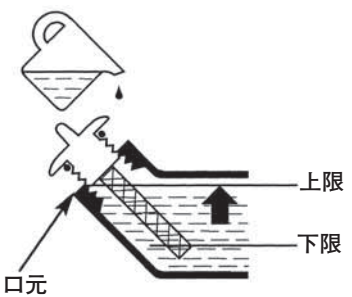
●荷崩れや転倒事故を防ぐため、日常点検を実施してください。

エンジン　オイルの点検

点検

本機を水平な場所に止めオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずにキャップを差込み、給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。油面が下限に近いときは、上限までオイルを補給してください。オイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は40～41頁参照）



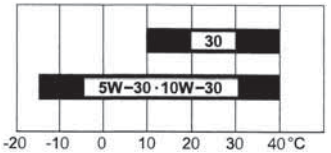


補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給してください。

《推奨オイル》： 4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル
Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30エンジン
オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは外気温に応じた粘度
のものを表にもとづきお使いください。



外気温

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

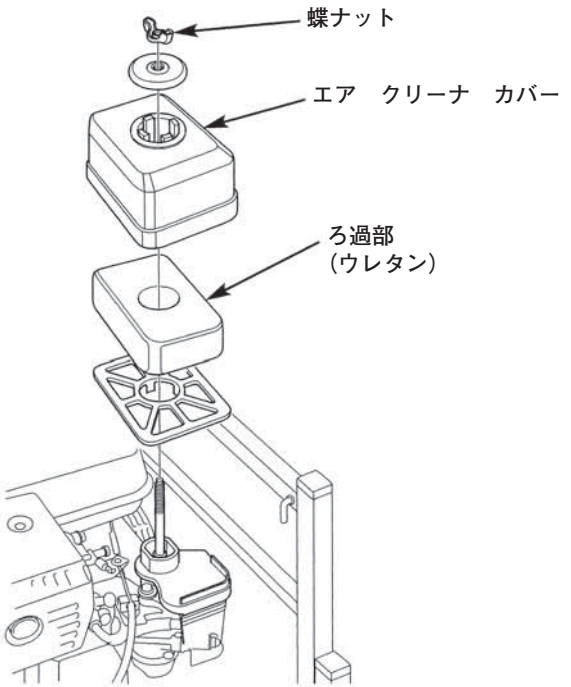
エア　クリーナ（空気清浄器）の点検

点検

1. 蝶ナットを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。
2. ろ過部（ウレタン）の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(43頁参照)

取扱いのポイント

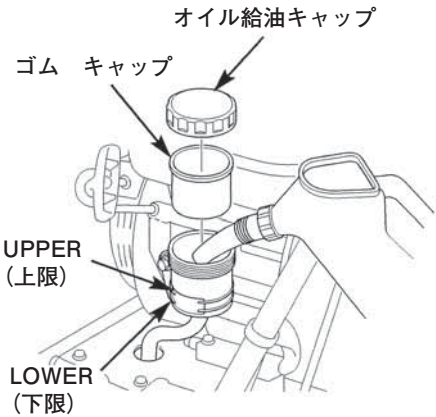
- **エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア　クリーナ　カバーやろ過部（ウレタン）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**



HST（変速機）オイルの点検

点検

HSTオイルの点検は、本機が冷えているときに行ってください。
HSTオイル　タンクのUPPER（上限）LOWER（下限）の間にオイルがあるか点検します。LOWER（下限）を下まわっているときは、補給してください。



補給

オイル給油キャップとゴム　キャップを外し、新しいオイルをUPPER（上限）まで補給します。

《推奨オイル》： 4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル
Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30エンジン　オイルをご使用ください。

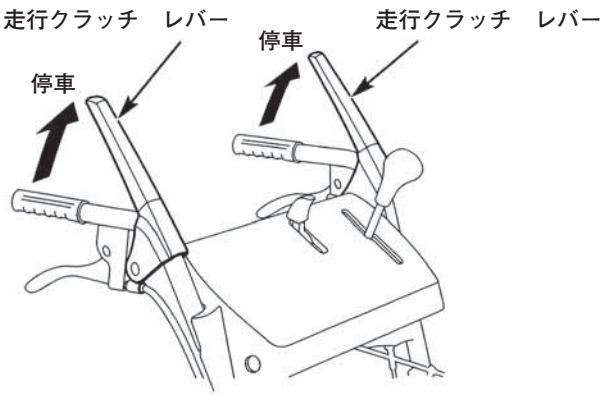
取扱いのポイント

- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **補給時、オイル　タンクの中にゴミなどの異物が入らないように十分注意してください。異物が混入すると変速機が故障する原因となります。**
- **HSTオイルが著しく減少する場合は、作業を中止してお買いあげ販売店にお申しつけください。**

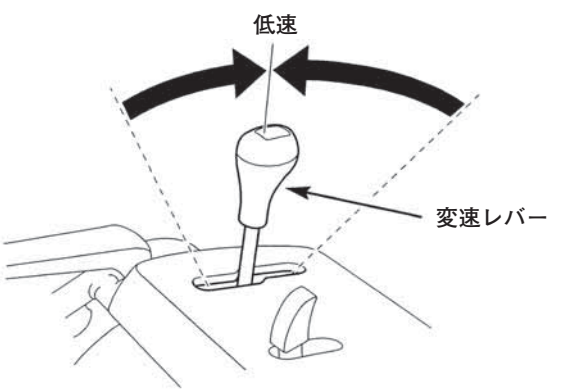
⚠警告

- **屋内や換気の悪い所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**
- **エンジンを始動するときは、必ず周囲の人や物の安全を確認してください。走行クラッチ　レバーが " 停車 " の位置で、変速レバーが " 低速 " の位置になっていることを確認してください。本機が不意に動きだし、けがをすることがあります。**

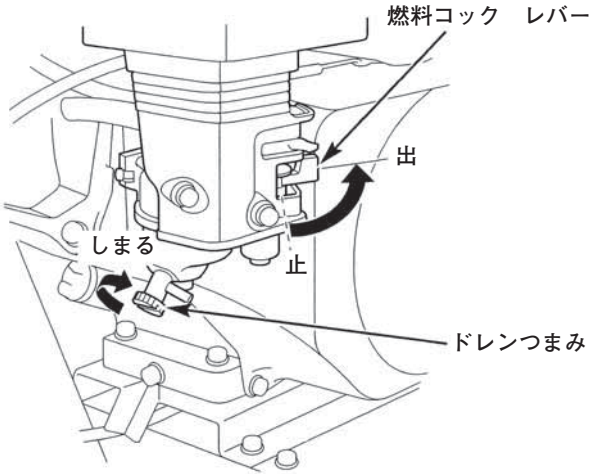
1. 走行クラッチ　レバーを **" 停車 "** の位置にします。



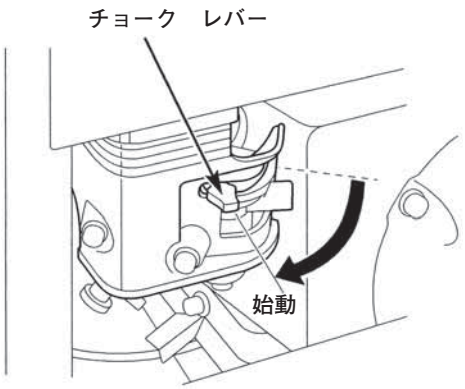
2. 変速レバーを **" 低速 "** の位置にします。



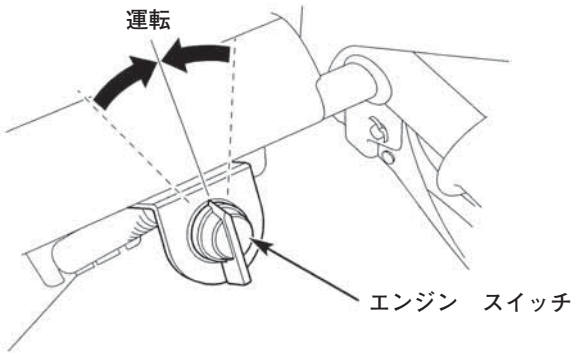
3. ドレンつまみが確実にしまっているか確認し、燃料コック　レバーを **" 出 "** の位置に合わせます。



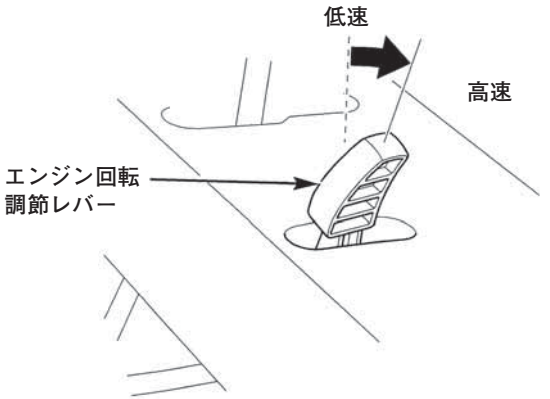
4. チョーク　レバーを **" 始動 "** の位置まで引いてください。
エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときにはチョークレバーは手前に引かず戻しておきます。



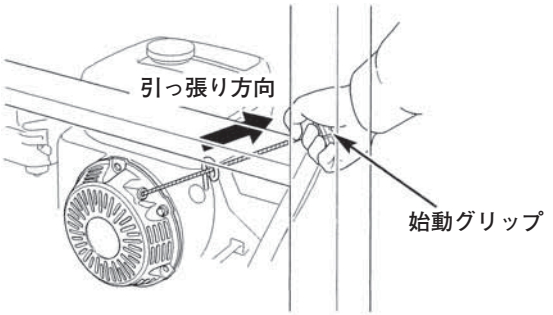
5. エンジン　スイッチを"**運転**"の位置に合わせてください。



6. エンジン回転調節レバーを"**低速**"と"**高速**"の中間の位置に合わせます。



7. 始動グリップを静かに引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。

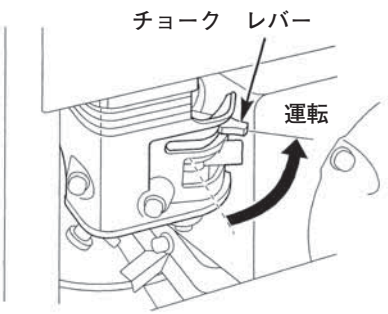


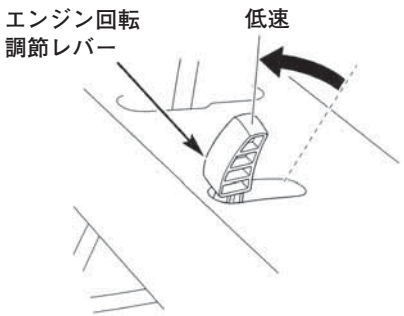
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップやまわりの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

8. 2～3分暖機運転を行います。
   チョーク　レバーを使用して始動したときには、エンジンの回転が安定するのを確認しながらチョーク　レバーを元の位置に戻します。
   エンジンの回転が安定したら、エンジン回転調節レバーを**"低速"**の位置にしてください。

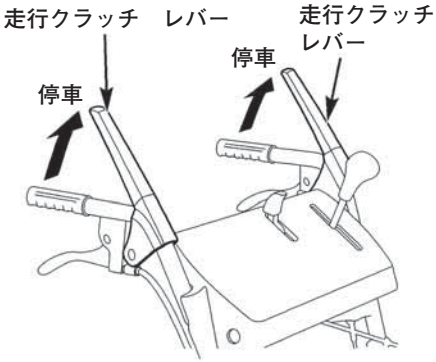
●暖機運転を行うことにより､エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命をのばします。

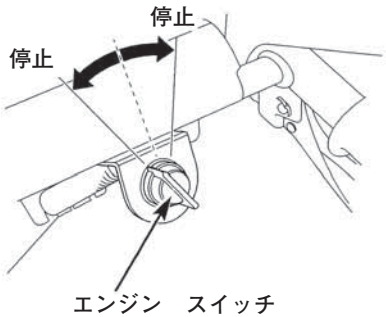




緊急停止の場合

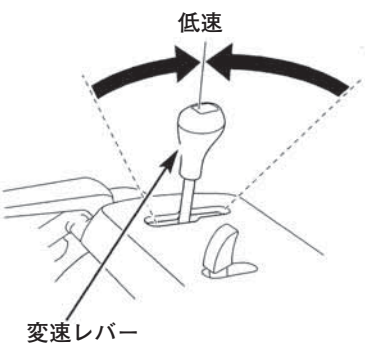
走行クラッチ　レバーから手を放すと、本機が停止します。
エンジン　スイッチを"**停止**"の位置にしてエンジンを停止します。

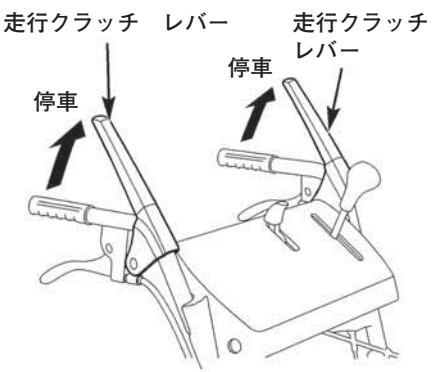




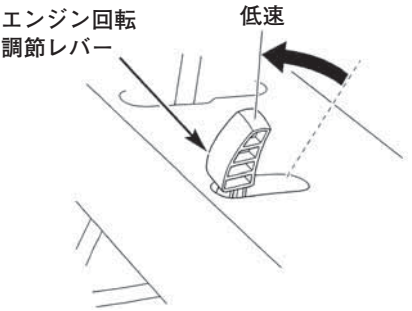
通常停止の場合

1. 変速レバーを"**低速**"の位置にし、走行クラッチ　レバーから手を放し、"**停車**"の位置にします。

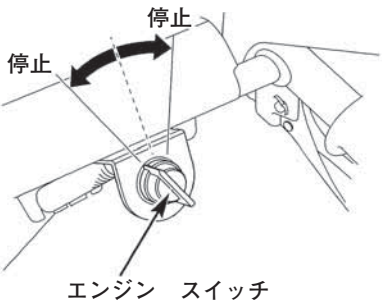




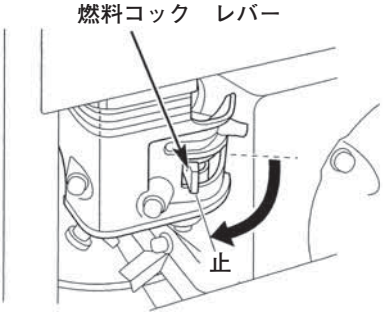
2. エンジン回転調節レバーを **" 低速 "** の位置に合わせます。



3. エンジン　スイッチを **" 停止 "** の位置にします。



4. 燃料コック　レバーを **" 止 "** の位置に合わせます。



運搬作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」の項目を良くお読みになり運搬作業にとりかかってください。

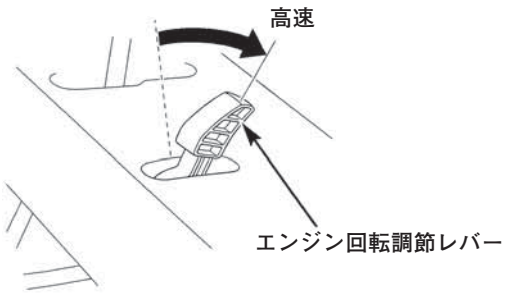
運転

「エンジンのかけかた」（24頁参照）に従ってエンジンを始動します。

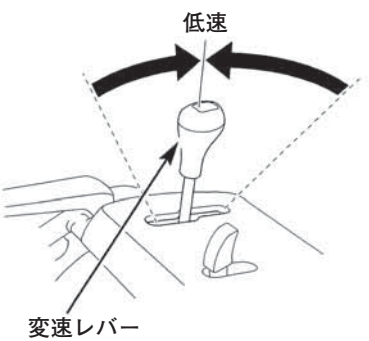
⚠注意

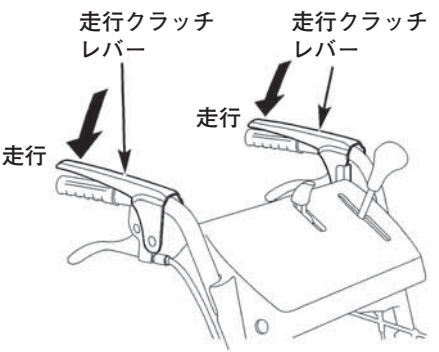
急発進による事故などを防ぐために、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

1. エンジン回転調節レバーを **" 高速 "** の位置に合わせます。



2. 変速レバーが **" 低速 "** の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握り **" 走行 "** の位置にします。

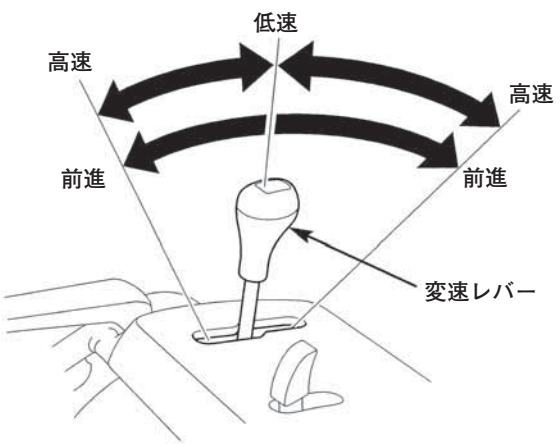




3. 変速レバーを **" 低速 "** の位置から動かすと走行を始めます。
作業内容に合わせて変速レバーを調整し、車速を設定してください。
走行中に変速レバーを操作し、車速を変速することができます。

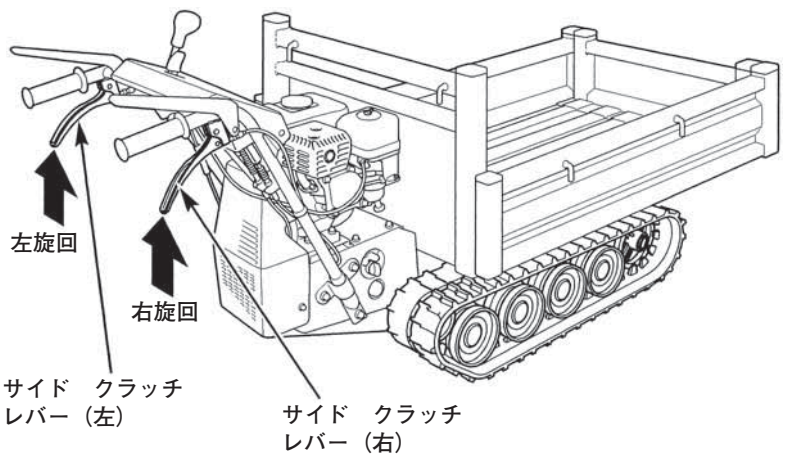
⚠警告

- **急な坂道を下るときはエンジン回転調節レバーおよび変速レバーを " 低速 " の位置にして走行してください。**
- **傾斜地でエンジンが停止したときは、すみやかに走行クラッチレバーから手を放し " 停車 " 位置にしてブレーキをかけてください。**
  走行クラッチ　レバーが " 走行 " の位置の状態では、ブレーキがかからず本機が動きだす場合があります。
- **後進するときは後方の安全を十分確認してください。**



旋回のしかた

旋回しようとする方向のサイド　クラッチ　レバーを握ると旋回します。
サイド　クラッチ　レバーを操作する場合は、レバーを確実に握ってください。



⚠警告

旋回するときは荷物が安定していることを確認してください。
急傾斜地では旋回しないでください。転倒や転落の原因になります。

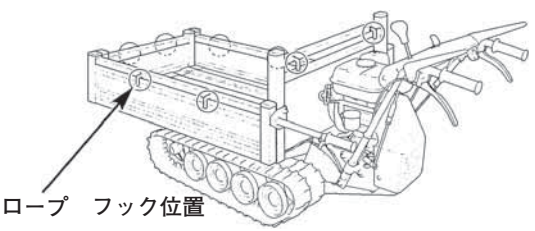
荷台（キャリア）の使いかた

36頁の重量制限を守ってください。

⚠警告

荷物を積載するときは、必ず定められた荷台寸法内で積載重量、正しい積載のしかた、傾斜角度を守ってください。エンジンやフレームに悪影響をあたえるばかりでなく、荷くずれなどを起こす原因になります。

荷物を積載するときは、必ず荷くずれしないようにしっかりとロープでロープ　フックを使い固定してください。



⚠警告

転倒や転落事故防止のために次の指示に従ってください。

- **本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。**
- **重心が高くならないように、重い荷物が下になるような積み方をしてください。**
- **荷台を広げて使用する場合は、必ず軽量物で平地に限って使用してください。**
- **積み荷が荷台からはみ出たり、視界を妨げるような積み方はしないでください。**
- **柔らかい地面、でこぼこのある地面を通過するときは速度を下げてください。**
- **15度以上の傾斜地では本機を使用しないでください。**

取扱いのポイント

ロープ　フック以外にはロープをかけないでください。

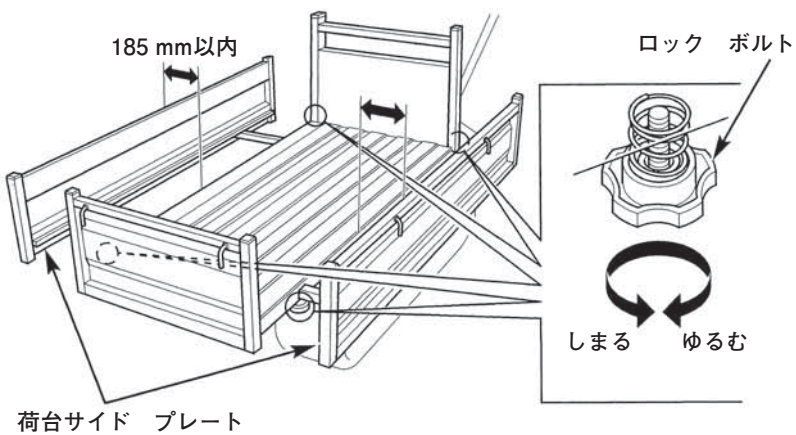
荷台サイド　プレートの使いかた

荷台サイド　プレートは左右185 mmずつ広げることができますが通常の場合は標準の位置で使用してください。

●荷物にロープをかけるときは荷物を荷台サイド　プレートに軽く当たるようにセットしてください。

荷台サイド　プレートの取扱い

左右のロック　ボルト4本をゆるめ荷台サイド　プレートを横方向に積載物に合わせて、左右均等（185 mm以内）に引き出してください。引き出し後、確実にロック　ボルトを締め付けてください。



⚠警告

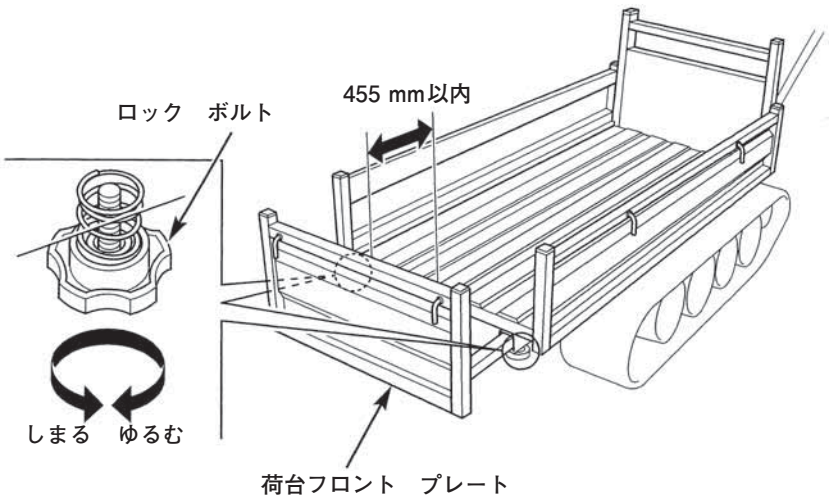
●急傾斜地では荷台サイド　プレートを広げて使用しないでください。荷台サイド　プレートを広げるのは、軽量物を運搬するときだけにしてください。

●荷台サイド　プレートを広げるときは、左右同じ長さに出して、荷物は左右均等に積載してください。限度以上に荷台サイド　プレートを広げないでください。荷台サイド　プレートが外れ荷くずれを起こし、けがをするおそれがあります。

荷台フロント　プレートの取扱い

ロック　ボルト2本をゆるめ積載物の長さに合わせて引き出してください（455 mm以内）。

引き出し後、確実にロック　ボルトを締付けてください。



⚠警告

急傾斜地では荷台フロント　プレートを引き出して使用しないでください。

荷台フロント　プレートを引き出して使用する場合は、軽量物を運搬するときだけにしてください。

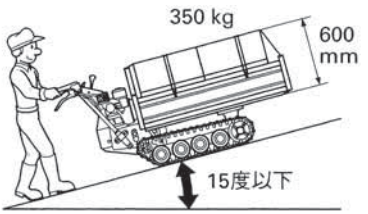
また、荷台フロント　プレートを限度以上に引き出さないでください。

荷台フロント　プレートが外れて荷くずれを起こしけがをするおそれがあります。

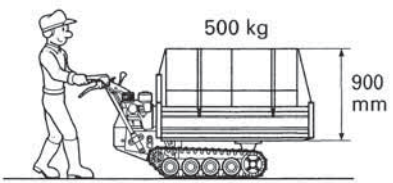
積載のしかた

この運搬機は平地または15度以下の傾斜地で使用してください。

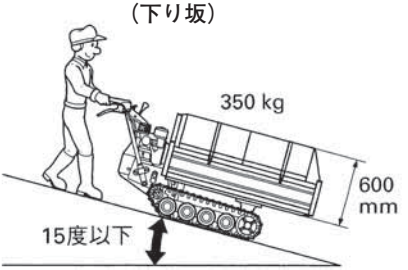
傾斜地15度以下
（登り坂）



平地

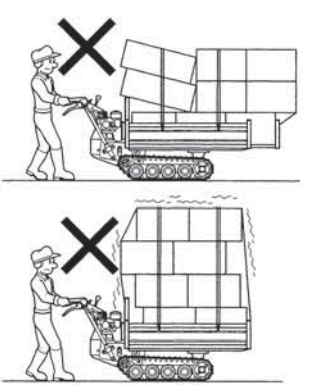


傾斜地15度以下
（下り坂）



⚠注意

- 荷台からはみ出すような荷物の積載はしないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したりして運転操作に支障をきたします。
- 荷物は高く積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなります。
  転倒などしやすくなりけがをするおそれがあります。



傾斜地での使いかた

走行について

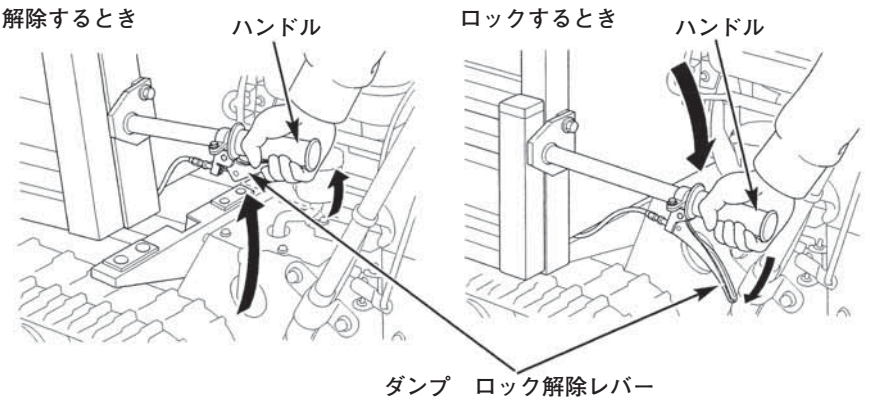
1. 必ず **"低速"** で走行してください。
2. 足場が悪い場合は、車速を下げて足元に十分注意して作業を行ってください。
3. 降坂時はエンジン回転調節レバーを **"低速"** にして、エンジンブレーキを使用してください。
4. 傾斜地での発進、停止は転倒に十分注意してください。
5. 急傾斜地での旋回および変速は行なわないでください。

積載について

1. 傾斜地では荷物の安定性が悪くなりますので、ロープなどでしっかり固定してください。
2. 路面の状態により本機の安定性が悪くなりますので、荷物の量は控え目にしてください。
3. 傾斜地では前方の視界が悪くなりますので、荷物の高さは控え目にしてください。

ダンプ　ロック解除レバーの使いかた

解除するとき …… レバーを握りハンドルを持ち上げます。
ロックするとき …… ハンドルのみ持ってロックするまで下げます。



⚠警告

本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。荷物を落としたり、けがをするおそれがあります。

定　期　点　検　を　行　い　ま　し　ょ　う

定期点検整備項目

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

点検整備項目 ＼ 点検時期（注１）		作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
エンジン　オイル	点検、補給	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○（注2）		
HST（変速機）オイル	点検	○				
ミッション　オイル	点検					○
本機まわりの点検		○				
レバー類の作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
配線、ケーブル類の点検		○				
エンジンの作動	点検	○				
点火プラグ	点検、調整				○	
	交換					○
エンジン回転調節ケーブル	調整					○（注3）
走行クラッチ　ケーブル	調整		○		○	
サイド　クラッチ　ケーブル	調整		○		○	
ブレーキ　ケーブル	調整		○		○	
ダンプ　ロック　ケーブル	調整				○	
クローラ	点検	○			○	
	調整		○			○
ブレーキ　シュー	点検				○	
	交換					○（注3）
各部グリス塗布						○
アイドル　スピード	点検、調整					○（注3）
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○（注3）
燃焼室	清掃	250時間運転毎（注3）（注4）				
燃料タンク、フィルタ	清掃					○（注3）
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（注3）				

（注1）点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

（注2）ホコリの多い所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

（注3）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店又はサービス店で実施していただく項目です。

（注4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

点検・整備は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを＂停止＂位置にして点火プラグキャップをプラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出す場合があります。

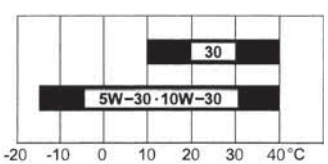
エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

交換時期　初回：1ヶ月目または20時間運転目
以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》　4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル
Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30エンジン　オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



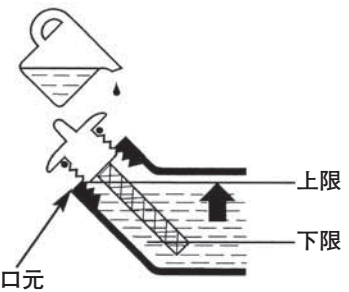
《規定量》 0.6L

交換のしかた

1. エンジン　オイル給油キャップを外し（20頁参照）、オイル排油ボルトをゆるめてください。
   オイル受けをセットしてからオイル　ファンネルを次頁図のようにセットしてください。

2. 排油ボルトを外しオイルを抜いてください。
3. 排油ボルトのドレン　パッキンを新しい部品と交換してください。
   再使用するとオイル漏れの原因になります。
   オイルが抜けたら排油ボルトを確実に締付けてください。
4. 新しいエンジン　オイルを給油口の口元まで注入してください。
5. 注入後、給油キャップを確実に締付けてください。





⚠注意

エンジン停止直後はオイルの油温、エンジン、マフラなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **必ず本機を水平にし、オイルを給油してください。**
- **交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。**
  不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

エンジン停止直後は点火プラグ、エンジン、マフラなどが熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

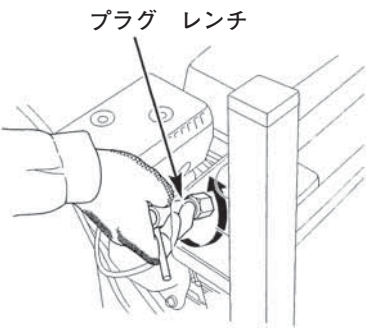
点検・調整時期

6ヶ月毎または100時間運転毎

清掃のしかた

1. 点火プラグ　キャップを取外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

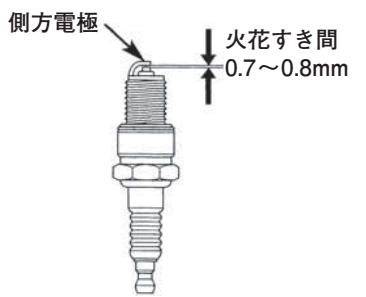
●プラグ　クリーナが無いときはワイヤブラシで汚れを落としてください。



調整

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7～0.8mm



標準プラグ

BP6ES（NGK）、W20EP-U（DENSO）
BPR6ES（NGK）、W20EPR-U（DENSO）

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締め付けてください。**
- **点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。**

エア　クリーナの清掃

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に点検しましょう。

⚠警告

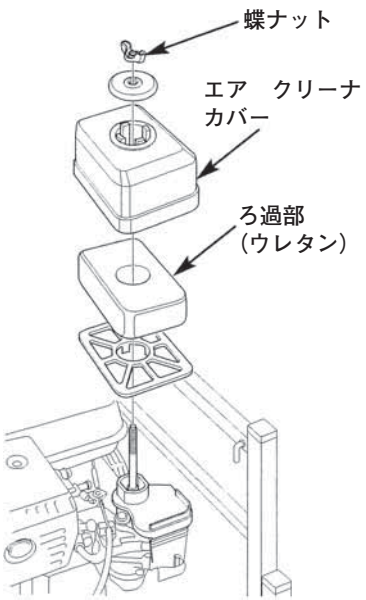
エア　クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

清掃時期

3ヶ月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間運転毎。

清掃のしかた

1. 蝶ナットを外し、エア　クリーナカバーを取外します。
2. ウレタンろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。次にオイルに浸した後固く絞ってください。
3. 清掃後、各部品を組付け、蝶ナットを確実に締付けてください。
   エア　クリーナ　カバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。



取扱いのポイント

- **エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア　クリーナ　カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付け方が悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。**

クローラの調整

⚠警告

点検・調整は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを＂停止＂位置にして点火プラグキャップを点火プラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出しクローラに巻き込まれけがをするおそれがあります。

クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。(点検方法は18頁参照)
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

調整時期

初回：1ヶ月目または20時間運転目
以後：1年毎または300時間運転毎

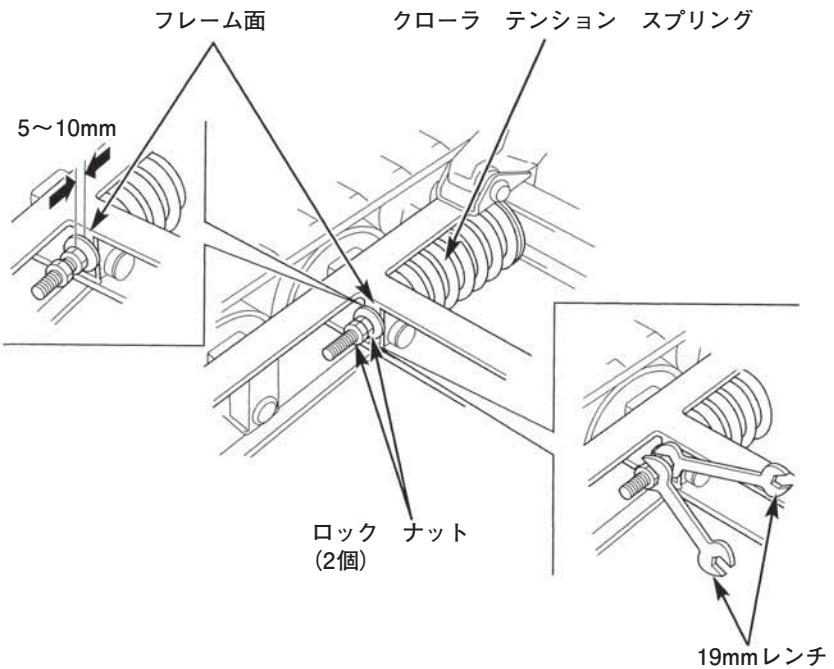
調整のしかた

⚠警告

持ち上げた荷台が落ちてきますので、荷台が落ちないように必ず木片などで確実に固定するか、または本機から荷台を外して行ってください。
荷台に体が挟まれ、大けがをするおそれがあります。

1. 荷台を持ち上げてください。
2. 持ち上げた荷台が落ちないように木片などを必ず入れてささえてください。
3. 外側のロック　ナットをゆるめ、次に内側のロック　ナットをフレーム面とすき間ができるまでゆるめてください。

4. 内側のロック　ナットとフレーム面の寸法が下記寸法になるようにロック　ナットを調整してください。
   規定寸法：5～10 mm
5. もう１個のロック　ナットで確実に締付けてください。締付けは19mmレンチ2本を使用してください。



走行クラッチ　ケーブルの調整

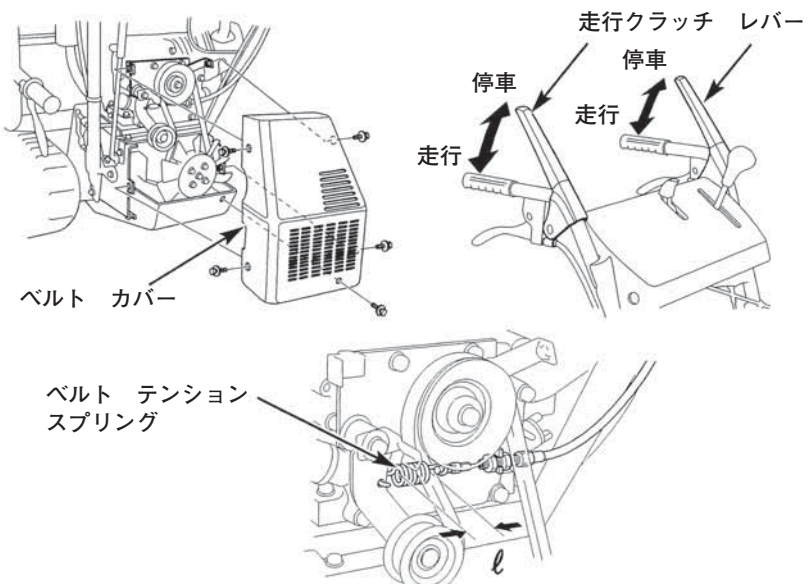
走行クラッチ　ケーブルの調整が完全でないと、クラッチがすべり走行できません。

調整時期

初回：1ヶ月目または20時間運転目、
以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

点検のしかた

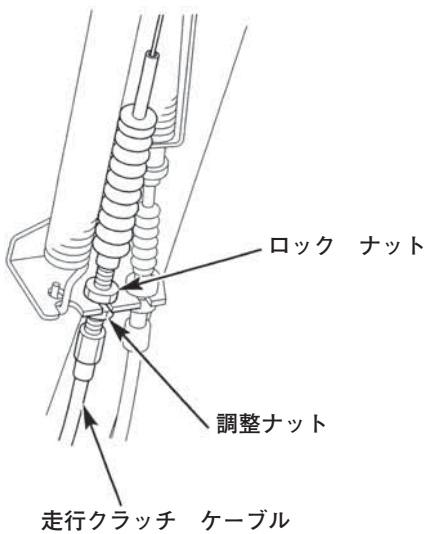
1. ベルト　カバーを取外します。
2. 走行クラッチ　レバーを**"停車"**の位置にします。
3. ベルト　テンション　スプリングの長さ（下の図のℓ寸法）を測定します。
4. 走行クラッチ　レバーを**"走行"**の位置にして、もう一度ベルト　テンション　スプリングの長さ（下の図のℓ寸法）を測定します。
5. 手順3.と4.で測定したベルト　テンション　スプリングの長さの差が下記寸法になっているか点検してください。
   規定寸法：5～7mm



調整のしかた

ベルト　テンション　スプリングの長さの差が5 mm以下の場合は次の手順で調整します。

1. 走行クラッチ　レバーを**"停車"**の位置にして、走行クラッチ　ケーブルのロック　ナットをゆるめます。
2. 調整ナットを回してベルト　テンシション　スプリングの長さの差が7 mmになるように調整します。
3. 調整後、ロック　ナットを確実に締付けてください。
4. ベルト　カバーを取付けます。



ブレーキ　ケーブルの調整

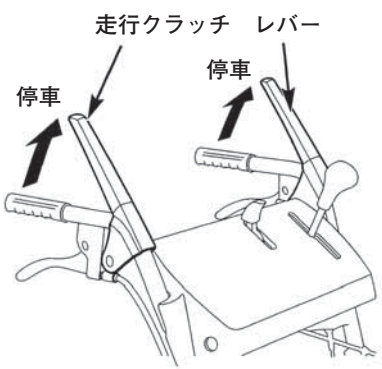
ブレーキ　ケーブルの調整が完全でないと、ブレーキの効きが悪くなります。

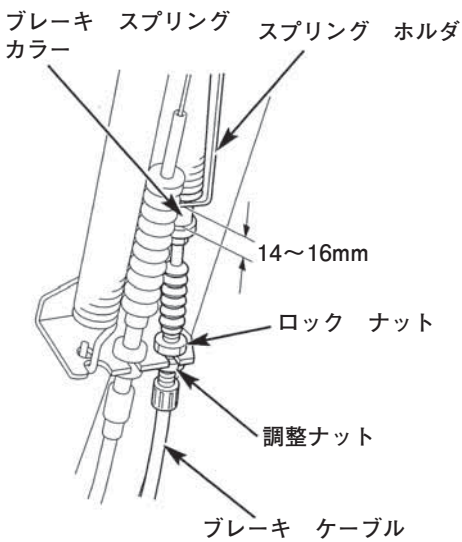
調整時期

初回：1ヶ月目または20時間運転目、
以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

調整のしかた

1. 走行クラッチ　レバーを放した状態（**"停車"**……ブレーキが効いている状態）でブレーキ　スプリング　カラーがスプリング　ホルダから下記寸法になっているか確認してください。
   規定寸法：14～16 mm
2. 調整は、走行クラッチ　レバーを放した状態でロック　ナットをゆるめて、調整ナットでブレーキ　ケーブルを動かして規定寸法になるようにしてください。
3. 調整後、ロック　ナットを確実に締付けてください。





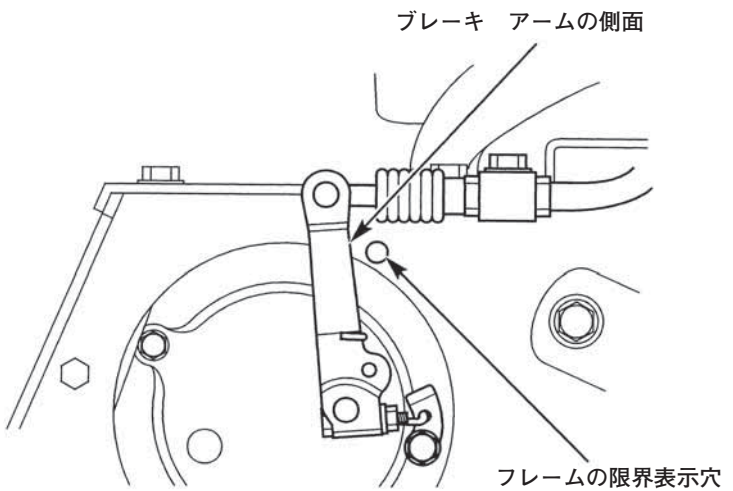
ブレーキ　シューの点検

ブレーキ　ケーブルの調整後、必ずブレーキ　シューの点検を行ってください。

点検時期

6ヶ月毎または100時間運転毎

走行クラッチ　レバーを放し"**停車**"の位置にしたとき、ブレーキアームの側面がフレームの限界表示穴にかかっていないか点検します。アームの側面が限界表示穴にかかっているときはお買いあげ販売店でブレーキ　シューの交換を行ってください。



サイド　クラッチ　ケーブルの調整

サイド　クラッチ　ケーブルの調整が完全でないとサイド　クラッチの切れが悪くなります。

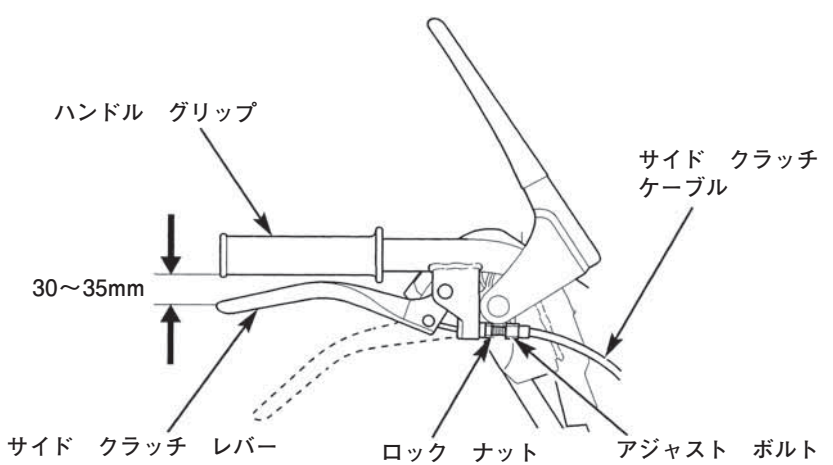
調整時期

初回：1ヶ月目または20時間運転目、
以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

調整のしかた

1. 本機を前後にゆすりながら、レバーが深く握れるところを探してください。
2. サイド　クラッチ　レバーを握った状態でレバーの先端とハンドル　グリップとのすき間が下記寸法になっているか確認してください。
   規定寸法：30～35mm
3. 調整は、レバーを握った状態でロック　ナットをゆるめアジャストボルトで規定の寸法にしてください。
4. 調整後、ロック　ナットを確実に締付けてください。

サイド　クラッチ　ケーブルの調整は左、右同様に行ってください。



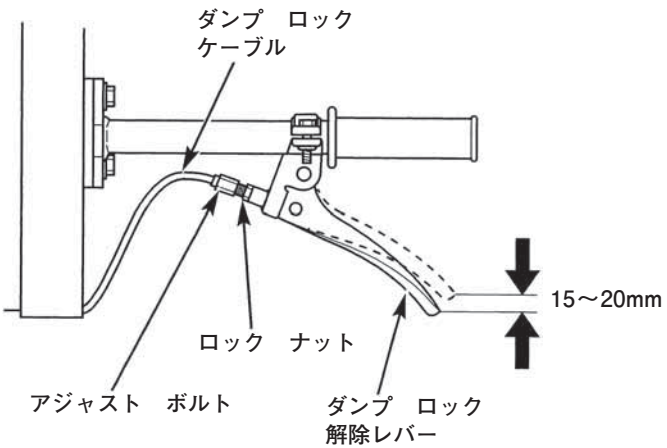
ダンプ　ロック　ケーブルの調整

調整時期

6ヶ月毎または100時間運転毎

調整のしかた

1. 荷台をロックした状態でダンプ　ロック解除レバーの先端の遊びが下記寸法になっているか確認してください。
   遊び：15～20mm
2. 調整は、ロック　ナットをゆるめアジャスト　ボルトで規定の寸法になるようにしてください。
3. 調整後、ロック　ナットを確実に締付けてください。

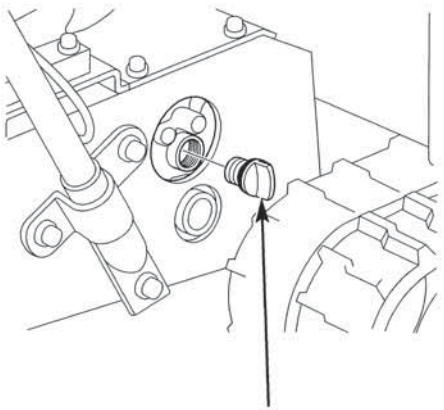


ミッション　オイルの点検

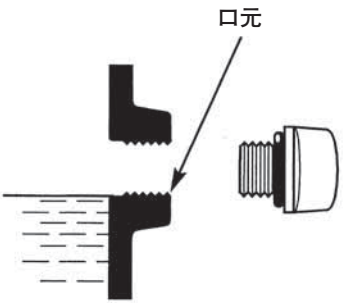
点検時期

1年毎または300時間運転毎

エンジンを水平にし、ミッション　オイル給油キャップを外して口元までオイルがあるか点検してください。もし口元までオイルがない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。



ミッション　オイル給油キャップ

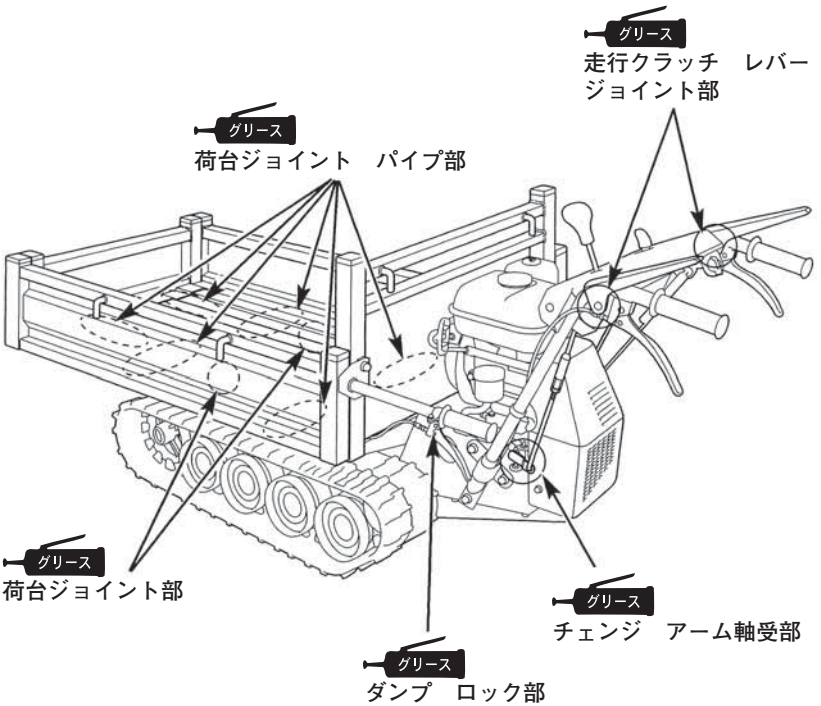


各部の給油について

本機を常に快適に使用するため、下記個所に給油してください。

給油時期

1年毎または300時間運転毎

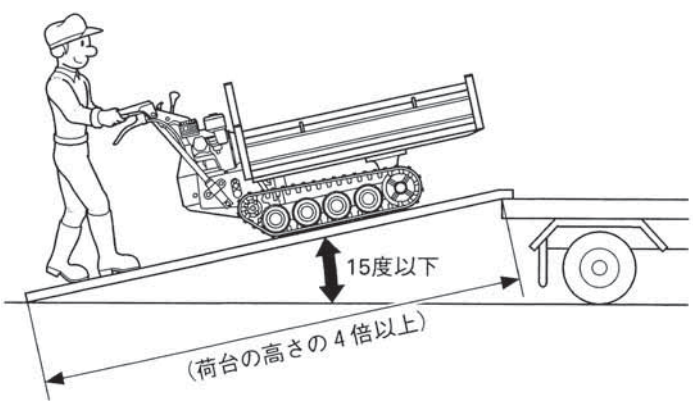


トラック（車）への積み降ろしのしかた

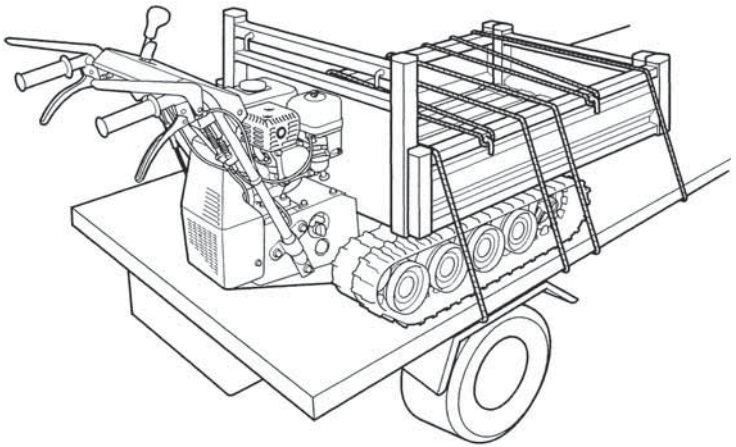
⚠警告

トラックへの積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下によりけがをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たすトラックを使用してください。
2. トラックへの積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行ってください。
3. アユミ板は耐荷重が0.5 t以上で、本機の傾斜角度が15度以下になる長さで、幅30 cm以上のもので、滑り止めや外れ防止フックのついた丈夫なアユミ板を使用してください。（目安としてトラックの荷台の高さの4倍以上）



4. アユミ板はトラックに対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. トラックにアユミ板を平行に並べ、本機のクローラと一直線であることを確認してください。
6. 本機に荷物のない状態で、必ず低速で行なってください。
   トラックに積載したら、走行クラッチ　レバーを放し"**停止**"位置にし、エンジンを止め、燃料コック　レバーを"**止**"位置に合わせ、本機をロープなどで2カ所以上固定してください。



7. トラックから本機を降ろすときは、低速で行ってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを必ず行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜きます。ガソリンは自然劣化しますので必ず抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠警告

平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを"停止"位置にして点火プラグ　キャップをプラグから取外してから行ってください。
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出します。

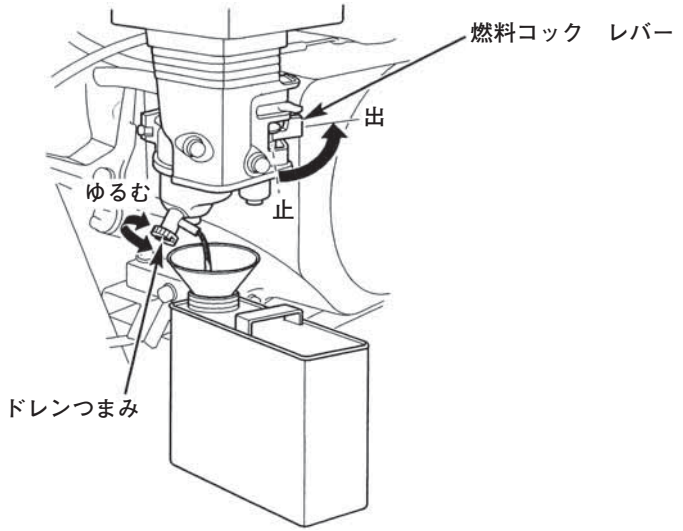
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン、マフラーなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。
やけどをするおそれがあります。

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。
－1. 燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。
－2. 燃料コック　レバーを**"出"**の位置にして、ドレンつまみをゆるめて、燃料を適切な容器に受けてください。
－3. 完全に燃料が抜けたら、ドレンつまみを確実に締めて燃料コックレバーを**"止"**の位置にしてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**



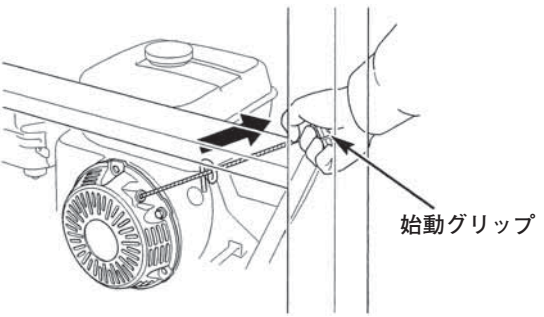
抜き取ったガソリンは、お買い求めになったガソリン　スタンドに処理を依頼してください。

2. エア　クリーナを清掃してください。(43頁参照)
3. 本機の清掃を行い、各部の締付けを点検してください。また各部の給油を実施してください。(53頁参照)

取扱いのポイント

- **本機を洗うときはエア　クリーナのカバー締付け部付近、電装部品、およびキャブレータに水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水がかかると内部に水が侵入し故障の原因になります。**
- **次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。**

4. 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



⚠警告

本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ　カバーなどをかけて格納してください。
エンジンやマフラが熱いときに燃えやすいものが触れると、火災の原因になります。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（24～27頁）
2. 燃料はありますか？（16、17頁）
3. エンジン　オイルは規定量はありますか？（20頁）
4. プラグ　キャップは確実に取り付けられていますか？（42頁）
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（42頁参照）
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確かめましょう

主　　要　　諸　　元

名　　称		HP500H
型　　式		NZAA
タ　イ　プ		CJ1P
全　　長		2,030 mm
全　　幅		615 mm
全　　高		1,100 mm
乾燥質量［重量］		192 kg
全装備質量［重量］		195 kg
エンジン	名　　称	GX160K1
	形　　式	強制空冷、単気筒、4ストローク、OHV
	排　気　量	163 cm^3
	エンジン最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	3.6 kW（4.9 PS）/3,600 rpm
	アイドリング回転数	2,000 ± 100 rpm
	無負荷最高回転数	3,600 rpm
	内径×行程	φ68.0 × 45.0 mm
	点火時期	上死点前25°
	点火方式	トランジスタ式、マグネト
	エンジンオイル容量	0.6 L
	燃料タンク容量	3.1 L
	点火プラグ	BP6ES（NGK）、W20EP-U（DENSO） BPR6ES（NGK）、W20EPR-U（DENSO）
変速段数		無段変速（HST）
車速	前進	0～4.3 km/h
	後進	0～3.6 km/h
最大積載量	平地	500 kg
	傾斜地	350 kg
荷台寸法（長さ×幅×深さ）		1,110 × 520（標準位置）× 180 mm
ミッションオイル容量		2.3 L
HSTオイル容量		0.6 L
クローラ（幅×長さ）		180 × 2,220 mm（60P × 37L）
荷台タイプ		ボックス

＊：ここに表示したエンジン出力はSAE Jl349に準拠して、3,600 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。
量産エンジンの出力は、この数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

諸元は予告なく変更することがあります。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Hondaの販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－1120（イイフレアイオ）10

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

〒361-0188　埼玉県和光市本町8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 製品名、タイプ名
② ご購入年月日
③ 販売店名

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

30776610
00X30-776-6100

Ⓢ Ⓝ200.2008.06
©2008 本田技研工業株式会社